

基安労発第 0524001 号

平成 18 年 5 月 24 日

都道府県労働局労働基準部

労働衛生主務課長 殿

厚生労働省労働基準局

安全衛生部労働衛生課長

(公 印 省 略)

熱中症による死亡災害発生状況（平成 17 年分）について

熱中症の予防対策については、平成 8 年 5 月 21 日付け基発第 329 号「熱中症の予防について」及び平成 17 年 7 月 29 日付け基安発第 0729001 号「熱中症の予防対策における WBGT の活用について」により指示されているところである。

平成 17 年における熱中症による死亡災害の発生状況については別添のとおりであるので、これら通達と併せて、熱中症の予防対策の徹底に努められたい。

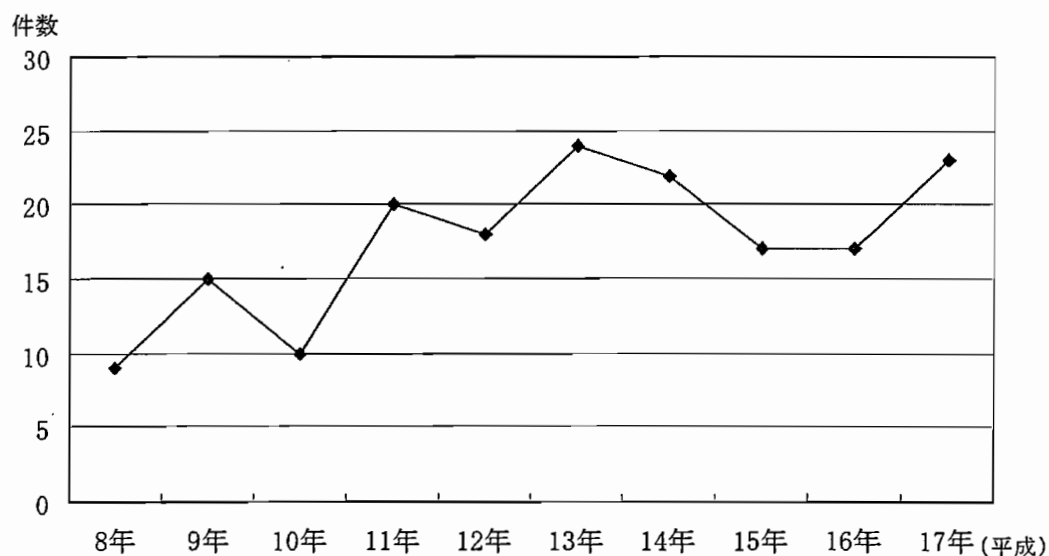
熱中症による死亡災害発生状況

1 熱中症による死亡者数の推移（平成8～17年分）

過去10年間の熱中症による死亡者数の推移を見ると、平成11年からは毎年20名前後の死亡災害が発生しており、平成17年は平成13年に次いで多い件数となっている。

熱中症による死亡災害発生件数の推移（平成8～17年分）

年(平成)	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
発生件数	9	15	10	20	18	24	22	17	17	23



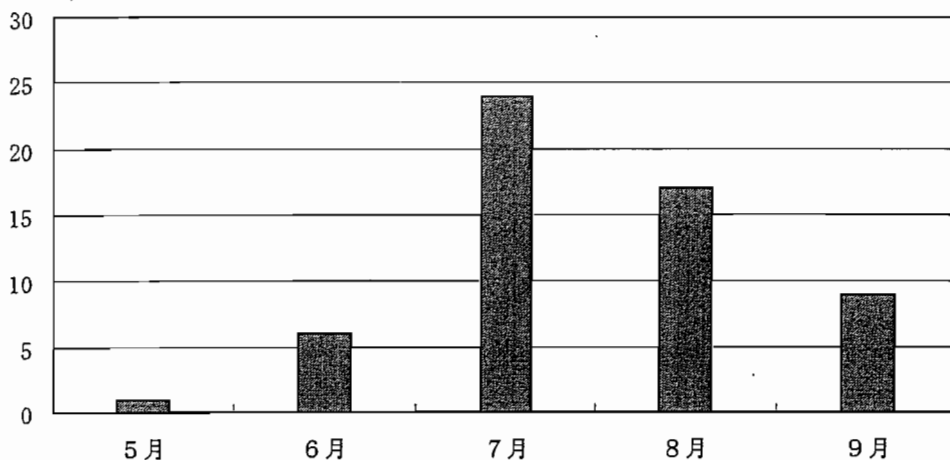
2 月別被災状況（平成15～17年分）

月別の被災状況をみると、例年7月および8月に集中して発生している。平成17年においては、9月に入っても5件発生しており、注意を要する。

月別被災状況（平成15～17年分）

月	5月	6月	7月	8月	9月	計
15年	0	2	4	8	3	17
16年	0	1	12	3	1	17
17年	1	3	8	6	5	23
計	1	6	24	17	9	57

件数



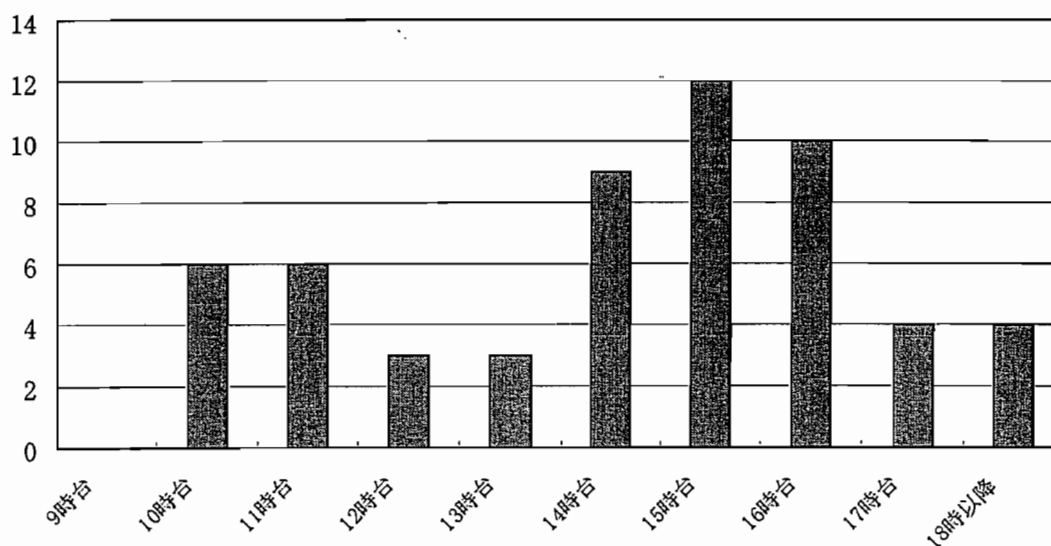
3 時間帯別被災状況（平成15～17年分）

時間帯別の被災状況をみると、午後2時から午後4時台の間に多発している。この時間帯は気温が高く、また、疲労も蓄積する時間帯であり、作業中のこまめな休憩と十分な水分及び塩分の補給が重要である。また、昼前の時間帯にも注意を要する。

時間帯別被災状況（平成15～17年分）

時間帯	9時台	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時以降	計
15年	0	4	1	0	0	2	4	4	1	1	17
16年	0	0	3	0	2	4	5	1	2	0	17
17年	0	2	2	3	1	3	3	5	1	3	23
計	0	6	6	3	3	9	12	10	4	4	57

件数

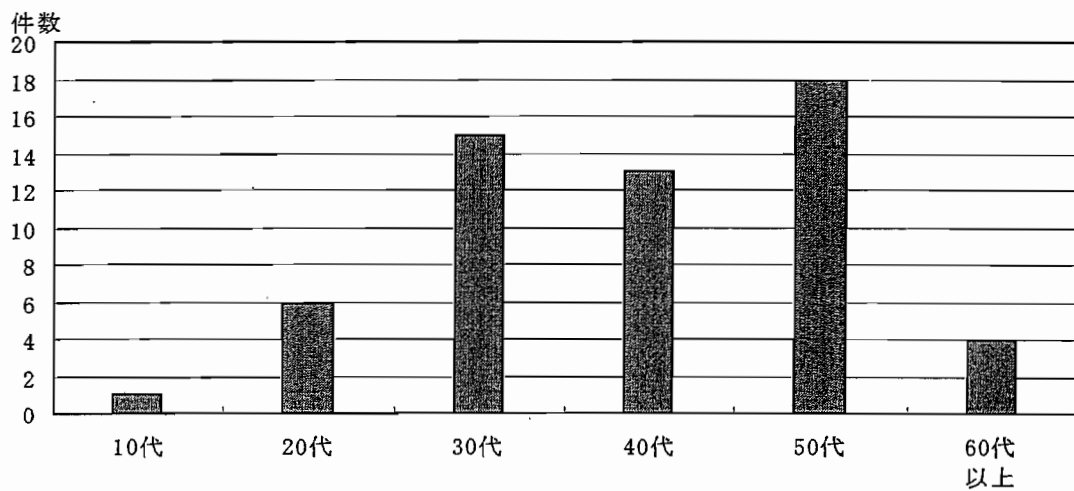


4 被災者の年代別被災状況（平成15～17年分）

被災者の年代別の被災状況をみると、30代～50代が突出している。

被災者の年代別被災状況（平成15～17年分）

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
15年	0	3	5	4	5	0	17
16年	1	2	1	6	6	1	17
17年	0	1	9	3	7	3	23
計	1	6	15	13	18	4	57

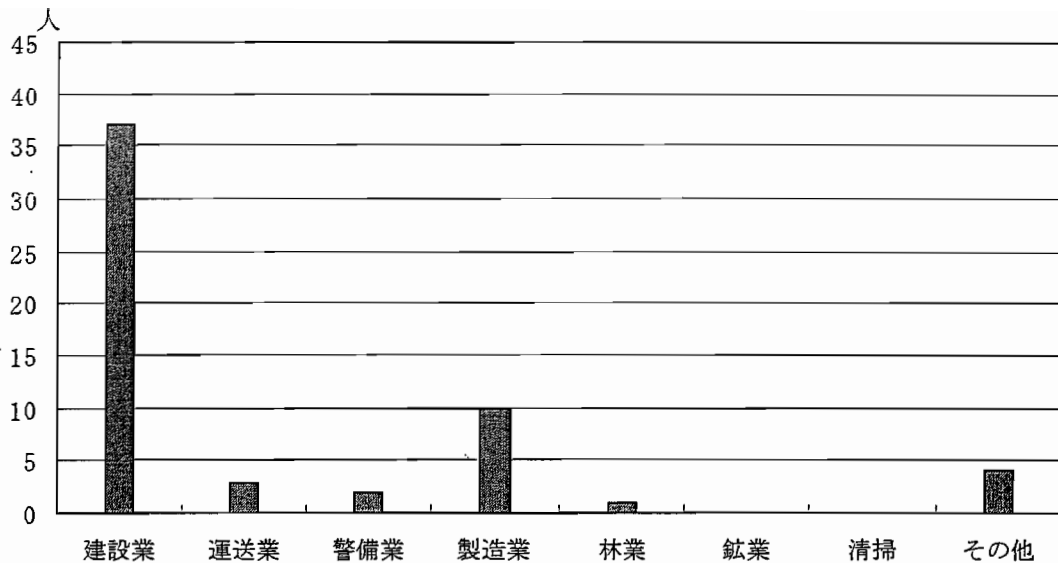


5 業種別被災状況（平成15～17年分）

業種別の被災状況をみると、建設業が圧倒的に多い。また、建設業以外の業種であっても、特に製造業で例年死亡災害が発生していることから、注意を要する。

業種別被災状況（平成15～17年分）

業種	建設業	運送業	警備業	製造業	林業	鉱業	清掃	その他	計
15年	11	1	1	3	1	0	0	0	17
16年	13	0	1	3	0	0	0	0	17
17年	13	2	0	4	0	0	0	4	23
計	37	3	2	10	1	0	0	4	57

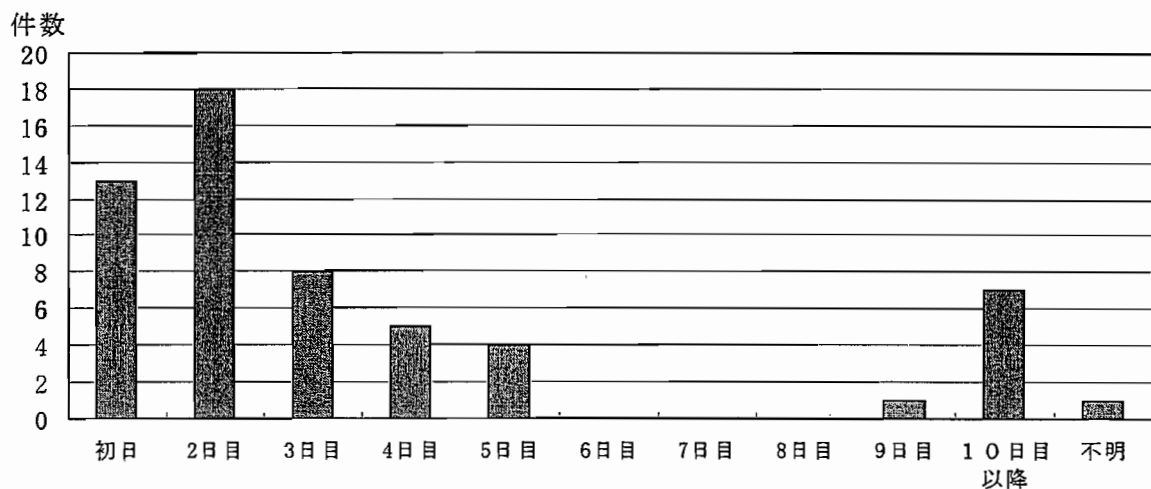


6 作業日数別被災状況（平成15～17年分）

作業日数別の被災状況をみると、作業開始から数日の間での発生がほとんどである。とくに高温環境下での作業に順応していない初日、2日目に多発している。高温環境下で作業を行う場合には、労働者に対し、作業開始前の安全衛生教育、健康状態の確認等を行うことが重要である。

作業日数別被災状況（平成15～17年分）

作業日数	初日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目以降	不明	計
15年	4	5	2	2	1	0	0	0	0	3	0	17
16年	5	6	2	0	1	0	0	0	0	2	1	17
17年	4	7	4	3	2	0	0	0	1	2	0	23
計	13	18	8	5	4	0	0	0	1	7	1	57



7 その他

(1) 熱中症と疑われる症状が現れているにもかかわらず、本人及び周囲の作業者に熱中症の認識がないことから、対応が不十分であった例が少なからず認められる。

熱中症は、早期の措置が大切であることから、あらかじめ作業員全員に対し、救急措置を含む労働衛生教育を確実に実施することが重要である。

(2) 適切な休憩設備が確保されていなかった例が認められる。

あらかじめ、日除けや通風をよくするための設備を設置し、涼しい場所に休憩場所を確保しておくことが重要である。

(3) 水分補給用に水、清涼飲料水等が準備されていても、塩分が備え付けられていない例が認められる。

塩あるいは塩分を含んだ飲料等により、水分補給とともに塩分の補給を必ず行わせることが重要である。

(4) 作業員の健康状態を十分に把握していないまま、作業を行わせた例が少なからず認められる。

作業開始初日あるいは2日目に多発している状況から、時期を逸することなく、作業員の健康状態を十分に把握することが重要である。

平成17年 熱中症死亡災害発生状況

番号	発生月	業種	気温 (℃)	相対 湿度 (%)	年齢	発生状況	主な発生原因
1	5	製造業	-	-	20歳代	災害発生当日、被災者は、休日出勤し、単独で加熱殺菌設備を使用して食肉加工作業に従事した。被災者は、加熱滅菌設備内の清掃作業中に閉じ込められ、翌日、加熱滅菌設備内で死亡していた被災者が同僚らに見えられたもの。	①設備内部から開けられない扉構造 ②退勤者管理体制未確立
2	6	建設業	32℃	44%	30歳代	災害発生当日、住宅新築工事現場で、被災者は午前8時に作業開始し、午前中は壁つなぎの作業をしていた。昼食後午後1時から作業が再開されが、被災者はモルタルを運搬していたところ、気分を悪くし、その後倒れこんでいたところを発見され、病院に搬送されたが、2日後死亡したもの。	①高温環境下での労働
3	6	製造業	屋外 34℃	屋外 70%	40歳代	災害発生当日、工場内で、被災者は午前8時からプレス機で切断作業を行っていた。午前10時から10分休憩後、引き続きプレス作業を行っていたが、体調が悪くなり、工場内から外へ出ようとふらふら歩いていたところ午前11時45分頃に倒れ、病院に搬送されたが、午後1時19分に死亡したもの。災害発生当日の工場内の温度・湿度は不明である。	①労働衛生管理不十分
4	6	建設業	33℃	46%	30歳代	災害発生当日、マンション建設現場で、被災者は午前11時30分より屋上階床のコンクリートの均し作業を行っていた。午後3時前に被災者は体調不良を訴え休んでいたが、午後3時30分頃、外部足場上で座り込むように倒れているのを発見され、病院に搬送されたが、同日死亡したもの。	①休憩時間が不十分 ③体調不良時の対応不十分 ④労働衛生教育不十分 ⑤健康状態把握不十分
5	7	建設業	32℃	68%	30歳代	災害発生当日、住宅新築工事現場で、被災者は午前8時過ぎからスコップで埋め戻し作業に従事していた。昼食休憩後、ポーチ付近でスコップを使用して採石作業をしていたが、午後1時30分頃、被災者は、ふらついて倒れそうになったため休憩したが、午後2時頃容態が急変し、病院に搬送されたが、午後3時、死亡が確認されたもの。	①高温環境下での労働 ②吸湿性・通気性の悪い着衣 ③健康状態把握不十分 ④適切な休憩場所の不備 ⑤労働衛生教育不十分
6	7	建設業	34℃	49%	50歳代	災害発生当日、木造平屋住宅解体工事現場で、被災者らは午前8時過ぎから解体作業を開始した。午後4時30分頃、被災者が、木屑等を拾い集め、重機のバケットに入れる作業をしていたところ、けいれんを起こしたため、病院に搬送されたが、2日後に死亡したもの。	①高温環境下での労働 ②健康状態把握不十分 ③熱中症予防対策の知識不足
7	7	建設業	31℃	57%	50歳代	災害発生当日、木造住宅建築工事現場で、被災者は1人で2階壁面に断熱材を埋め込む作業を行っていた。午後6時20分頃、現場を訪れた者により倒れているところを発見され、病院に搬送されたが、1週間後に死亡したもの。	①高温環境下での労働 ②健康状態把握不十分

平成17年 熱中症死亡災害発生状況

番号	発生月	業種	気温 (℃)	相対 湿度 (%)	年齢	発生状況	主な発生原因
8	7	製造業	31℃	60%	30歳代	災害発生当日、被災者は午前8時に勤務を開始し、屋外作業場で、2人で日干しされた角材を段積みする作業を行った。午前10時の休憩に入るなり、座り込んでいた被災者はふらふら歩き出したが、歩行ができなくなり、病院に搬送されたが、同日死亡したものの。	①高温環境下での労働 ②健康状態把握不十分 ③労働衛生教育不十分 ④熱中症予防対策の知識不足
9	7	建設業	33℃	37%	50歳代	災害発生当日、既設店舗内部の解体工事現場で、被災者は午前8時から廃材の搬出作業を一輪車を使う等して行っていた。午後4時頃、被災者は体調不良を訴え、ひさしのある場所で休憩していたが、午後5時頃、駐車場の自動車の中で意識がもうろうとしているところを発見され、病院に搬送されたが、4日後に死亡したものの。	①涼しい休憩場所の不備 ②吸湿性・通気性の悪い着衣 ③体調不良時の対応不十分
10	7	建設業	28℃	77%	50歳代	災害発生当日、建築工事現場で、被災者らは午前8時から型枠の組立作業を開始した。午後3時の休憩後は、被災者は2人で型枠材に印をつける作業を行っていた。現場での作業は午後6時に終わり、午後7時30分頃、同僚らと帰宅途中の車内で意識を失い、病院に搬送されたが、既に死亡していたもの。	①高温環境下での労働 ②補給用塩分の不備
11	7	製造業	屋外 30℃	屋外 55%	60歳代	災害発生当日、被災者ら3人は、午前8時30分から作業打合せを行った後、工場内において定期修理作業を行っていた。午後1時から作業を再開したが、午後2時30分頃から、被災者は体調不良を訴え、日陰で横たわって休憩をとった。その後も体調が回復せず、被災者が病院の受診を希望したため、病院に搬送されたが、翌日死亡したものの。工場内でも気温30℃以上、湿度55%以上だったと推定される。	①高温環境下の労働
12	7	その他	屋外 34%	屋外 40%	30歳代	災害発生当日、被災者は午前8時から厩舎内で房や通路の清掃等の作業を行っていた。午後3時から午後の作業に就いたが、午後4時頃、厩舎内の通路でふらふらしているところを発見され、その場で意識を失い、倒れたため病院に搬送されたが、翌日死亡したものの。	①熱中症予防対策の知識不足
13	8	運送業	屋外 35℃	屋外 52%	30歳代	災害発生当日、被災者は親事業場において、午前7時45分頃からリフターを使用してパレットを回収し、回収したパレットをコンベヤーに移し変える作業を行っていた。午後4時25分頃、工場内で様子がおかしい状態のところを発見され、その後病院に搬送されたが、同日死亡したものの。	①労働衛生教育不十分 ②健康状態把握不十分
14	8	建設業	35℃	45%	50歳代	災害発生当日、道路改良工事現場で、被災者は、午前8時過ぎから資材の片付け等の作業を行っていた。昼休みのときに被災者は体調不良を訴え、その後直後に倒れたため、病院に搬送されたが、死亡したものの。	①健康状態把握不十分 ②補給用塩分又は水分の不備
15	8	その他	30℃	52%	40歳代	災害発生当日、被災者は、午前8時から工場内で不要になった段ボール等を集荷してまわる作業を開始し、午後5時28分には作業を終えた。その後、着替えをして、駐車場へ向かって屋外敷地内をふらふら歩いていたところ、転倒したため、病院に搬送されたが、翌日死亡したものの。	①熱中症予防対策の知識不足

平成17年 熱中症死亡災害発生状況

番号	発生月	業種	気温 (°C)	相対 湿度 (%)	年齢	発生状況	主な発生原因
16	8	その他	32°C	58%	30歳代	災害発生当日、骨材置き場で被災者は午前8時ごろから砂利等の袋詰め作業を行い、その後移動して、午前10時頃から屋外作業場内でコンクリート製品の製作作業を行っていた。午後0時ごろ、片づけを行っていたところ、被災者はふらついている様子となり、病院に搬送されたが、同日死亡したものの。	①高温環境下での労働 ②熱中症予防対策の知識不足
17	8	建設業	34°C	47%	60歳代	災害発生当日、堤防工事現場で、被災者は、午前8時20分からコンクリート打設作業及びコンクリート表面の仕上げ作業を行っていた。午後1時頃、作業場所近くの日陰で休憩していたところ倒れ、意識不明となり、病院に搬送されたが、同日死亡したものの。	①高温環境下での労働
18	8	建設業	27°C	70%	50歳代	災害発生当日、被災者は午前8時頃から事務所内の片付け、事務機器等の移動作業を1人で行っていた。午前10時頃から宿舎の部屋で休憩をとっていたが、なかなか戻らず、様子を見に来た者に倒れているところを発見され、病院に搬送されたが、翌日死亡したものの。	①高温環境下での労働 ②通風設備の不備
19	9	建設業	32°C	68%	50歳代	災害発生当日、区画整理工事現場で、被災者は午前8時からワイヤーロープで吊った石を敷き詰める作業を行っていた。午後4時過ぎに被災者は体調不良を訴えたため、被災者を帰宅させようと事務所に戻る途中、意識を失い、病院に搬送されたが、死亡したものの。	①健康状態把握不十分
20	9	運送業	33°C	40%	60歳代	災害発生当日、被災者は午前3時に所属事業場を出発し、配達先到着後、つづいて、別の工場に向かった。午後2時からパネル製品の積み込み作業を行い、午後3時には積み込み場所を離れた。午後3時45分頃、トラック横の構内路上で仰向けになっているところを発見され、病院に搬送されたが、5日後死亡したものの。	①冷却装置の故障 ②労働衛生教育不十分 ③健康状態把握不十分
21	9	建設業	29°C	61%	30歳代	災害発生当日、家屋増改築工事現場で、被災者は午前9時頃から、スラブ配筋作業を行っていた。肩で息をしていたことから午前11時30分頃から休憩させていたが、体調は回復せず、被災者はぐったりしたため、病院に搬送されたが、翌日死亡したものの。	①高温環境下での労働 ②健康状態把握不十分
22	9	建設業	33°C	48%	40歳代	災害発生当日、建物の改装工事現場で、被災者は午前9時頃から、建材の搬入や掃除等の作業を行っていた。午後の作業は午後1時から行ったが、被災者の体調は思わしくなく、座り込んでいたが、体調が悪化したため、車の中で休んでいた。午後2時45分頃、車内で様子がおかしい状態をしているところを発見され、病院に搬送されたが、同日死亡したものの。	①補給用塩分又は水分の不備 ②高温環境下での労働 ③健康状態把握不十分
23	9	その他	27°C	76%	30歳代	災害発生当日、被災者は缶飲料を自動販売機に充填する作業を終え、午後6時40分頃帰社したが、体調不良を訴えたため、すぐに帰宅した。翌日は出勤しなかったが、その日のうちに入院するに至り、15日後に死亡したものの。	①高温環境下での労働 ②労働衛生教育不十分 ③労働衛生管理不十分 ④体調不良時の対応不十分

熱中症の都道府県別死亡者数（平成13年～17年）

都道府県	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	都道府県別合計
北海道				1	1	2
青森						0
岩手	1					1
宮城	1					1
秋田				1		1
山形						0
福島		1				1
茨城		1			1	2
栃木				1	1	2
群馬						0
埼玉		2	2	2	1	7
千葉	1	3			1	5
東京	1	3	2	2	2	10
神奈川			2		1	3
新潟		1				1
富山	1	1				2
石川		1				1
福井				1		1
山梨						0
長野		1				1
岐阜			1			1
静岡	1	1		1	1	4
愛知	1	2		3	2	8
三重		2			1	3
滋賀			1			1
京都					2	2
大阪	5					5
兵庫	3		1	1	1	6
奈良	2		1		2	5
和歌山					1	1
鳥取						0
島根						0
岡山	1		1			2
広島				1		1
山口	1		2	1		4
徳島					1	1
香川		1				1
愛媛	1					1
高知						0
福岡			1		1	2
佐賀	1				1	2
長崎	1			1	1	3
熊本					1	1
大分						0
宮崎	1		1			2
鹿児島	1		1	1		3
沖縄		2	1			3
合計	24	22	17	17	23	103